

有限会社藤村産業

マイコン制御型ダブルエンドテノーナによる最先端トイレブースの製作

確かな技術と提案力で、最先端のトイレブースを和歌山から発信



補助事業

需要が高い密閉型のトイレブース発注に応じて コンピューター付きカット機を導入

昔から林業が盛んな和歌山県は、建具業の歴史が古く、特に和歌山市は県下の建具業者が集中する地域として知られる。「藤村産業」は戦後、市内で木製建具製作所として創業し、時代の変遷と共に、ユーザーが求める建具を企画、製造、販売している。

現在は商業施設や文化施設、オフィスビル、教育施設、病院などにあるトイレブース（トイレ個室の間仕切壁）やフラッシュ（扉）建具の製造・販売をメインに事業を展開。近年はデザイン性や犯罪防止などの観点から、上下に隙間のない密閉型のトイレブースの発注が増えてきている。

密閉型のトイレブースは3m近くの高さがあるものが主流であり、トイレパネル（扉や壁になる木材板）の

カット加工に、高い寸法精度が求められる。同社にあるカット機は1987年型でマイコン制御が付いていなかったため、昔ながらの手作業でパネルを測定してカットしていた。精度の誤差が生じやすく、熟練技師がカバーしていたが、カットに相当の時間を費やすことがあり、急な納期変更への対応が困難で、依頼を断るケースもあった。

コンピューター付きカット機「マイコン制御型ダブルエンドテノーナ」を導入することにより、これらのデメリットを対処できる上、複雑で多様性の高い加工も可能となる。また、多品種・少量生産に有効利用するなど販売量の増加につながることも予想できるため、同事業を実施することにした。

成果

3mクラスの密閉型トイレブース市場で 対前年比で毎年10%の受注増に

最新機械の設置により、0.1mm単位での制御が実現。また、厚手の特殊パネルのカットも容易になったことから、デザイン事務所やスーパーゼネコンなどが依頼する、デザイン性の高いトイレブースを忠実に製造できるようになった。

その他、生産時間の短縮、コスト削減も予想した通りの成果を上げた。増産や急な納期変更にも対応可能になったことで、以前は断っていた仕事も受注できるようになった。

その結果、3mクラスの密閉型トイレブース市場で、対前年比で毎年10%の受注増につながった。



今後の展開

長年培ってきた知識とアイデアで 「10年先のトイレ」を提案

同社は「東京スカイツリー」（東京都）や「グランフロント大阪」（大阪府）など、大都市圏の大型商業施設のトイレブースの受注実績を持つ。2020年の東京オリンピック開催をはじめ、都市部の再開発が進み、中古ビルの改修需要が高まっている今、最新機械の導入と業界日本トップクラスの熟練技術で、さらなる大型受注を狙う。

同時に、今後も進化するトイレ空間を、長年培ってきた建具製造の知識とアイデアを基に、「10年先のトイレ」として提案。安売り競争に埋没することなく、最先端のトイレブースを和歌山から発信していこうと考えている。



各施設のイメージに合った トイレ空間をクリエイト

戦後に木製建具製作所として発足した「藤村商店」が原点。昭和40年に和歌山市の小倉木工団地に移転し、昭和48年に屋号を「藤村産業」に変える。昭和51年に現在のメイン事業となるトイレブース部門を開設し、近年は関東や近畿、東海地方を中心に、大型商業施設やホテルのトイレブースやフラッシュの建具の製造・販売を行っている。



代表取締役
藤村 孝義



有限会社藤村産業

代表者／代表取締役 藤村 孝義
設立／平成15年
資本金／300万円
従業員／11人
事業内容／トイレブース・フラッシュの建具の製造・販売

〒649-6261 和歌山市小倉294-100
TEL.073-477-4025 FAX.073-477-1278
Mail.fujimura@wine.ocn.ne.jp